

の、しかも市民に必要な施策を推進し、格の高い行政を展開していきたい。



合併で広がる新たな可能性(御津支所・瀬崎支所)

岡山駅西口広場 整備の基本コンセプト

問 新たな岡山の顔となる駅西口広場の、設計の基本コンセプトは。

答 アカマツや万成石など県産材の積極的な使用による岡山らしさの演出や、木材の使用による温もりある空間の創出のほか、センタープラザ、大階段、デッキテラスといった空間構成を生かしたデザインとするとともに、子どもから高齢者まで安全に利用できる広場となるよう

バリアフリーを徹底する考えだ。

災害に備え 避難勧告等の基準作成へ

問 平成16年の台風の反省を踏まえ、非常時に住民に対して的確に避難勧告や命令が出せるよう早急な基準作成が必要では。

答 市民のより確実な安全確保のため、一定の基準は必要と認識している。今後、防災情報システムが整備され、雨量や水位等の細かな数値データを得ることが可能となることから、これらの数値と避難勧告や指示発令のタイミングについて研究し、基準作成に努める考えだ。

DV被害者の市営住宅 入居資格緩和を検討

問 現在二回の優遇抽選を行っているDV被害者の、本市市営住宅への優先入居について、さらなる進展は。

答 DV被害者の認定について、当初からの裁判所の保護命令に加え、現在は県婦人相談所長の一時保護証明や市男女共同参画相談支援センター長の緊急一時保護等に係る事実証明でも申し込みを受け付けるよう改善している。今後、国から新たな施策として示されている入居者資格の緩和についても対応を検討していきたい。

本市の聴覚障害者採用 広く受験を受け付け

問 本市職員の採用について、聴覚障害者に門戸を開き活躍の場を広げることが必要と考えるが、採用状況は。

答 障害者の方々を対象とした採用試験をほぼ毎年行っており、聴覚障害者の方からの応募もある。サービスを提供する立場になるため、介護なしで職務が遂行できるという最低限の条件を満たすことが必要だが、受験の際には手話通訳や筆談等の支援を行いながら、広く受け付けている。現在、約六十名の障害を持つ職員のうち七名が聴覚障害者であり、今後も積極的に受験していただきたい。

市民ネット

災害時の情報提供に向け 屋外拡声子局を設置

問 災害時に避難勧告等の情報を提供する 屋外拡声子局を設置する地域は 戸別受信機を併せて設置する考えは。

答 御津、瀬崎に各一カ所と、過去の被害地域や国・県の情報等から警戒を要する地域等を優先し、効率的な伝達が可能

となる場所を選定したい。平成17年度に二百二十台を設置する予定だが、過去の被害地域を重視し連合町内会長や自主防災会のリーダー等に配備したい。

コンベンション誘致 官民一体で推進

問 本市へのコンベンション誘致を、観光対策と併せて官民一体で強化・推進しては。

答 岡山駅西口再開発等でコンベンション機能が一層充実することから、東京での誘致懇談会や国際ミーティングエキスポへの出展等、誘致強化に努めている。また、観光関連業界への研修会開催等でアフターコンベンション受け入れ体制の充実を図っており、今後も官民一体の推進体制構築に努めたい。

水道管の効率的更新に向け 管路評価システムを構築

問 水の安定供給を図るため、配管診断システムを構築し老朽管の計画的な更新を。

答 現在、現状を多角的、定量的に評価・診断する管路評価システムの導入に向け、基礎となる腐食度と土壌のデータを収集しており、平成17年度は調査の継続と一定の検証を行う予定だ。これにより、優先順位が明確となり効率的な更新が可能と

なると考える。

聴覚障害者の緊急通報に メール一一九番の導入を

問 聴覚障害者等からの火災や緊急通報に対応するため、メール一一九番を導入しては。



市民の安全を守るために (消防情報通信センター)

答 無線のデジタル化のため現行の緊急通信指令システムを平成23年までに更新する必要がある、その際導入したい。それまでの対策として、携帯電話の電子メール等による緊急通報を受け、該当消防機関に代理通報する緊急リレーメッセージ等のサービスを積極的にPRしたい。